

平成30年度

学校評価

専門学校静岡医療秘書学院

平成 30 年度 専門学校静岡医療秘書学院 学校評価書

1. 教育理念・教育目標・教育計画

* 自己評価は、A（十分成果があった）、B（成果があった）、C（少しの成果があった）、D（成果がなかった）

評価項目	具体的取り組み	自己評価	学校としての改善策	学校関係者評価委員の意見
学園理念	<ul style="list-style-type: none"> ・医療業務に携わるために必要な知識と技能を習得するだけでなく、人として義を重んじ礼を尽くす人間形成に基づき、医療現場において病める人たちに優しく接し、人の悩みの判る人間愛に根ざした奉仕の精神を兼ね備えた人材を育成する。 ・時代の変化に対しても有効かつ適切に対応する 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・普遍ではあるが、常に関係各方面の意見を聞き、時代の変化に対しても有効適切であるか、又学生の実態に応じたものになっているか検証する ・医療事務に加え医療クランクの育成に取り組む 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校設立の経緯から、今後も県医師会との連携を密とし、運営委員会や講師合同協議会を有効に活用し、お互いに意見交換を行う。 ・病院からの評価が高く、今後も医療クランクとしての人材が必要とされる
教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ・良好な医療体制を構成する医療スタッフの一員である医療秘書・医療事務を育成する 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・教育環境に常に気をくばり対応するとともに、医療関係者の意見をより多く取り入れる 	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業生や卒業生の就職先の先生方（雇用主）との意見交換も重要
教育計画	<ul style="list-style-type: none"> ・学校案内・学生便覧（学則・細則・教育課程・教務規程・学生心得・その他数々の規程）を配布し理解できるまで説明する 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・今後ともいっそうの充実をはかるとともに、学生からの意見も取り入れる ・時代にそぐわないものは追加・削除・訂正をする 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校に関する書類の閲覧の機会を可能な範囲で増やしたことにより、追加・削除・訂正すべきことが明確になった

2. 教育活動

評価項目	具体的取り組み	自己評価	学校としての改善策	学校関係者評価委員の意見
教育課程	<ul style="list-style-type: none"> ・教育目標を反映する ・日本医師会認定カリキュラムを遵守しつつ社会の要請や就職先の要望を反映する ・専門科目と基礎科目等との関連や科目間の系統性、関連性を十分に考慮する ・職業人としてのマナーやしつけ教育などにも配慮する 	<p>A</p> <p>B</p> <p>B</p> <p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・外部の意見も取り入れ再度検証する ・社会情報の変化や学生の気質の変化に柔軟に対応する ・医師を中心とした専門家の意見を今後も取り入れる ・教科以外の講座等を多く組み、これまで以上の成果を上げる 	<ul style="list-style-type: none"> ・現在医療現場で働いている卒業生などの意見を聞く機会を一層増やすべき ・接遇の講座だけでなく、日常生活においても実践指導することが必要 ・多くの講座を組み入れることで成果が上がっている
教育課程の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・授業科目の学年進行や時間配当に十分配慮する ・教員の受け持ち時間は過重にならないように配慮する ・授業人数は基準通りに編成する ・少人数指導や習熟度別指導を導入する ・二学期制は教育活動と合致させる ・長期休業や授業計画、各種行事と連動して機能させる 	<p>A</p> <p>B</p> <p>A</p> <p>B</p> <p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・年間計画に基づいて展開しているが行事等で変更する場合もあり、又、授業変更が困難な状況なので、当初より長期休暇中に集中講義を組み、通常月の時間割に余裕を持たせる工夫を行う ・今まで実習先を就職先とリンクすることが望ましいと考えて実施してきたが、実習は必須科目で別物であると考え柔軟的に行っていきたい 	<ul style="list-style-type: none"> ・講師の多くが現役の医師なので、時間変更などに工夫が必要 ・診療のない日の講義の設定も一考を要す ・ほかの授業と実習が重なり欠課が多くなるように、実習期間内に行うことが必要と考え、時期の設定を検討してほしい
学習指導・評価	<ul style="list-style-type: none"> ・医療クランクを目指すための授業展開をする ・日本医師会医療秘書認定試験受験基準に必要な各種資格を取得させ、さらに高度な技能を目指す ・学習速度が遅れがちな学生を対象とした特別指導を実施する 	<p>A</p> <p>A</p> <p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・目標とする職業を意識しながら学習するよう指導し、専門知識習得の意欲を向上させる ・長期休暇はもちろん、各種検定に関する教科について随時実施しているが、一層丁寧に行う 	<ul style="list-style-type: none"> ・補講を行う場合など、専任の教員との連携が重要である ・補講の成果が上がっているように見受けられる

2. 教育活動－2

評価項目	具体的取り組み	自己評価	学校としての改善策	学校関係者評価委員の意見
学習指導 ・評価	<ul style="list-style-type: none"> ・成績評価の基準を明確に学生に示す ・学生に対し各種ガイダンスを充実させる 	<p>B</p> <p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・定期試験等は十分学生に説明しているが、その他の教科ごとの加算内容等は担当の講師に任されているので、それらも明確にしている 	<ul style="list-style-type: none"> ・将来、医療機関で働きたくなる意欲を一層かきたてる指導をして欲しい ・担任だけではなく講師も含め、気軽に相談できる態勢にして欲しい
テキスト ・教材	<ul style="list-style-type: none"> ・テキストの内容はあらゆる機会に検討し、出版社に対し常に改訂の要請をする ・学生がわかりやすい資料作成に努める ・資格、検定試験に対応することができるようにする 	<p>B</p> <p>A</p> <p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・改定の要請はしているが、毎年出版という訳にはいかない為、副教材で対応する ・講師の希望によりカラー印刷機を導入した ・担当の講師が最新の情報で副教材を作っている。基礎教養科目についても新しい情報を盛り込み改善しつつある。 ・毎年良好な結果であるが、より高度な内容にもトライさせたい 	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的に教科書が難解と思われるがまだ改定されていない ・多様な資料の作成ができ副教材が充実した ・カリキュラム変更に伴い模擬試験問題が少なく指導が難しい
実習 研修	<ul style="list-style-type: none"> ・実際の医療機関に約1ヶ月の実習研修に向く為、教科ごとに必要な指導に当たる 	<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・指導するのが現場の医師や医療事務職なので内容は十分であるが、理解が不足している学生に対し、補講等一層工夫し実習に向かせる 	<ul style="list-style-type: none"> ・接遇などの指導を十分に ・将来の仕事に対するモチベーションが向上することを目標に

3. 生活支援

評価項目	具体的取り組み	自己評価	学校としての改善策	学校関係者評価委員の意見
生活指導 カウンセリング	・クラス担任制によりきめ細かく指導する	A	・担任の負担が多く、外部講師にも協力を要請する	・現在、充分努力していると認める。 引き続き努力してほしい
		B	・学生の掃除を徹底させる	・就職先でも掃除は基本ということを併せて指導する
	・学校生活不適應、学業不振、問題行動などの早期発見、早期指導体制の充実に努める	A	・毎朝の打ち合わせに十分時間をとっているが、心の問題については医師の助言を求める	・対象の学生に対し面接や家庭への連絡を頻繁に行い対応してほしい
	・教育相談（カウンセリング）の体制を整備し有効に機能させる	B	・年に数回、全員への実施を検討する	・体制を整えてほしい
	・学生の悩み等に気軽に相談にのる	B	・経済的な問題の学生にはアルバイトの紹介等を行ったが、その他については弁護士等に相談する	
	・健康管理体制を整え、医療関係者としての自覚を深める	A	・ほぼ毎日医師が講師として来校するので、意見を求め参考にする	・体や心の事はあまり深くかかわり過ぎず、早期に専門家（医師・臨床心理士等）の受診を勧めるべき
		B	・遅刻が多い学生には、就寝時間やアルバイト後の帰宅時間を聞くなど指導する	・授業に集中できる環境をつくるよう指導をお願いしたい ・入学時の目標を振り返らせ、目的意識を再度確認し、勉学に励まさせる

4. 就職・進学

評価項目	具体的取り組み	自己 評価	学校としての改善策	学校関係者評価委員の意見
就職指導 進学指導	<ul style="list-style-type: none"> ・就職のための全体指導だけでなく個人指導も行う 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・1年生と2年生では大きく意識が異なり、またモラトリアムが必要な学生もあり、より一層きめ細やかな指導が必要 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会人講師の導入を増やすべき
	<ul style="list-style-type: none"> ・試験対策の授業を行う 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・校外の社会人講師の授業は大変好評であったので回数を増やしたい 	<ul style="list-style-type: none"> ・1年時に病院見学を行うことにより意識向上につながっている
	<ul style="list-style-type: none"> ・就職のための模擬面接を行う 	A		
	<ul style="list-style-type: none"> ・進学希望者に対する指導も行う 	C	<ul style="list-style-type: none"> ・進学希望者がなかった事もあるが、指導時間を増やしたい 	<ul style="list-style-type: none"> ・就職目的で入学するので、進学希望者がいないのは当然

5. 学生の募集と受け入れ

評価項目	具体的取り組み	自己評価	学校としての改善策	学校関係者評価委員の意見
募集	<ul style="list-style-type: none"> ・募集要項は真実性・明瞭性・公平性・法令遵守等十分配慮し、入学希望者に判断材料を提供する 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・完成時期を早め、迅速に広報活動に利用する 	<ul style="list-style-type: none"> ・本学院の名称が、大学・専門学校進学希望者に広く知れ渡り、より意欲のある学生が集まるような工夫に努めている
	<ul style="list-style-type: none"> ・学校案内をより高校生に理解しやすく編集する（特に医療クラークと医療事務の違いを明確にする） 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・現代の高校生に理解しやすくするために視覚的な表現を多く採り入れる 	<ul style="list-style-type: none"> ・高校での進路ガイダンスに参加し、生徒に説明できたことは評価に値する
		A	<ul style="list-style-type: none"> ・パンフレットに理解しやすく載せる 	<ul style="list-style-type: none"> ・医療クラークと医療事務の違いがイラストにより理解しやすくなった
	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェブサイト等を利用した広報に力を入れる 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページでの広報やメールで意見等を聞き、アンケートや希望者の他校動向を分析している 	<ul style="list-style-type: none"> ・常にHPやポスターを更新するよう努めてほしい
入学選考	<ul style="list-style-type: none"> ・提出願書（志望動機・調査書・成績証明書）などにより、本学への理解や熱意を適正かつ公平な基準で判断する。特に将来医療関係に就く意欲を問うように注意する 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・学生の提出書類等の内容だけではなく、面接にも力を入れる ・単に合否だけでなく、受験生の意欲がわくようにも配慮する 	<ul style="list-style-type: none"> ・医療スタッフの一員になる意欲を持たせ、入学後の授業等の中でも継続して高めるように努めている

6. 安全管理

評価項目	具体的取り組み	自己評価	学校としての改善策	学校関係者評価委員の意見
危機管理	<ul style="list-style-type: none"> ・非常時・緊急時に対応できる体制をつくり、被害の拡大を防ぐ ・避難訓練の実施 ・保存食・水、災害用品の管理 	<p>A</p> <p>A</p> <p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・危機管理マニュアルを作成し、有事の際はすみやかに対応できるよう、改めて確認した ・道路を横断しての避難のため交通状況の把握が必要 ・毎年新しいものに取り換える 	<ul style="list-style-type: none"> ・意識の向上に努めてほしい ・事故には十分注意してほしい ・寝具の補充も必要ではないか
保健衛生	<ul style="list-style-type: none"> ・校内施設の衛生管理を行い、学生が快適な学校生活を送れるよう環境を整える ・老朽化していたトイレを改修 	<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的に施設の安全点検を行う ・衛生的使用を促す 	<ul style="list-style-type: none"> ・継続的に環境調査を実施してほしい

7. 施設・設備

評価項目	具体的取り組み	自己評価	学校としての改善策	学校関係者評価委員の意見
教室	・学習目標を達成し技術を身につけるために施設設備を適切かつ十分に整備する	A	・教室について今後とも整理・整頓・清潔を保つように努めるが、窓や机・椅子の老朽化が目立つ	・施設設備に関しては、過不足のないよう慎重に検討しながら整備し、清潔さを保持するべき
情報処理		A	・情報処理室の ORCA（日本医師会標準レセプトソフト）を更新する	・演習経験を積むことができたが、最新バージョンにする必要がある
		A	・ネットワークシステムを導入することにより、利用範囲が広がる	・ネットワークシステムを導入することにより利用範囲が広がったことは高く評価できる
101 教室		C	・多目的室は有効に機能させる	・無線 LAN、移動式の机、iPad が必要
保健室		A	・保健室は今後とも清潔に努める	・定期的な換気や清掃を行う必要がある
図書コーナー		C	・図書コーナーは書籍が増えたので整理整頓が必要	・書庫が少ないのではないかと
学生ホール		B	・教科書や資料が増えているため、ロッカーを増やしたい	・スペースの問題があるが検討してほしい

学校評価のまとめ

学 校	学校関係評価会員
<p>学生や講師からの希望であったトイレの改修を行ったことで、以前より清潔に保つことができている。</p> <p>カラー印刷機の導入により医療系の授業資料の充実を図る。</p> <p>広報活動に力を入れた成果がでたのか、入学生が大幅に増えた。来年度もさらに工夫して入学生が増えるよう努力する。</p> <p>引き続き教育課程・施設設備の充実に努める。</p>	<p>トイレを改修したことにより学生の快適さが上がったのではないか。今後も施設の修理・改善には積極的に取り組んでほしい。</p> <p>従来の資料よりも明解になり学生の理解度の向上に期待する。</p> <p>入学生が増えて成果が伺える。来年度も引き続き力を入れてほしい。</p> <p>電子カルテの導入を検討したらどうか。</p>